

伊深まちづくり協議会だより



第5号 2012年 8月1日発行

今号の内容

・協議会の動き	1
新たに規約を制定 など		
・協議会公式ホームページを開設します	..	2
・各活動グループの動き	2
・地域のトピックス	3
・巻末雑感	4

■協議会の動き

新たに規約を制定。ホームページも開設し住民参加型の運営をめざします

伊深まちづくり協議会では今年度の開始にあたり、組織、運営方法の見直しを図っていますが、その一環として、6・7月の定例会において伊深版の規約を制定したほか、地域の課題についての認識を深め、話し合うための機会として、新たに「まちづくり研修会」(＝まちけん)を年数回開催すること、協議会の公式ホームページを開設することなどを決め、具体化をすすめています。

■新しい規約のポイント

- ・定例会・運営委員会を設置し、機能を明確にしました。
- ・広報委員・監査委員を新設しました。
- ・「まちづくり研修会」(＝まちけん)を制度化しました。

■四つの活動グループを認定

これまで個別の地域課題に自主的に取り組んできた以下の活動グループを、今年度の「まちづくり活動グループ」として活動内容・予算を含めて改めて認定しました。

各グループの今年度の活動概要は2～3ページに掲載しました。

- ① 野菜づくり体験グループ
- ② 伊深の里の標柱づくりグループ
- ③ 里山活動グループ
- ④ 伊深小 学校田支援グループ

■新たな取り組み「まちづくり研修会」(＝まちけん)

まちづくり協議会は、ややもすると委員だけが動いているようにみられますが、決して委員だけの組織ではなく、「住民自身が主体的に考え、行動する」ことが目的の組織です。

この考えを一步すすめるべく、今年度から新たな取り組みとして、「まちづくり研修会」を年数回実施します。

これは地域の共通の課題を優先的に取り上げ、有識者の話を聞いたり、話し合ったりしながら理解を深め、次のステップにすすむためのきっかけづくりとして実施するも

ので、今のところ、次の4つのテーマを予定しています。

9月	伊深自治会館建物調査の結果について (報告会)
11月	耕作放棄地の現状について (座談会)
1月	「ヨソ者」から見た“伊深”はどんなもの (座談会)
3月	伊深の山の現状について (座談会)

※内容は予告なく変更することがあります。

実施内容が固まり次第、協議会ホームページ等でお知らせしますので、その節は多数ご参加ください。

■平成24年度委員名簿

役職	氏名	所属 (活動グループ代表)
会長	大矢 伸司	H21 自治会長会長 (里山G)
副会長	佐野 綾目	活動G代表 (学校田G)
副会長	木澤 孝彦	H24 自治会長会長
会計	福田 美津枝	生涯学習委員 (標柱G)
広報委員	渡辺 葉子	選任
監査委員	篠田 洋	H22 自治会長会長・交安分会長
同	小林 喜典	H23 自治会長会長
委員	大矢 末男	H24 自治会長会副会長
同	遠山 尚	社協伊深支部長
同	堀田 基城	伊深体育振興会長
同	渡辺 祐二	消防第6分団長
同	堀田 康史	伊深小学校 PTA 会長
同	井戸 研吾	伊深保育園保護者会長
同	森 善一	可茂森林組合理事 (野菜G)
同	福田 範和	農業委員
同	小林 均	民生児童委員
同	井戸 加代子	主任児童委員
同	篠田 純子	伊深あじさい会

以上18名

事務局	加納 茂樹	伊深連絡所長
-----	-------	--------

伊深まちづくり協議会公式ホームページを開設します！

協議会では地域内外への情報発信力を高めるため、下記のとおり公式ホームページを開設します。

協議会の活動はもちろん、伊深地域内の主な動きや歴史的、地理的な魅力などについても発信していきますので、ぜひ定期的にご覧ください。

記

- 1 開設予定時期 平成24年8月10日(金)
(準備の都合上遅れることがあります)
- 2 ホームページのアドレス

<http://ibukamachi.com>

- 3 ホームページの構成

H O M E ・ 新着情報	トップページ、トピックスを紹介
協議会について	協議会の基本事項について
連携団体	協議会と連携する各種団体等について
活動グループ	協議会内で活動するグループについて
協議会だより	協議会だよりのバックナンバーを掲載
伊深の今	伊深の現状を統計的に紹介
伊深の歴史	伊深の歴史を各種資料で紹介
伊深の四季	伊深の風景・事物を季節別に写真で紹介
資料	協議会や伊深に関する各種資料を掲載

あなたの写真がホームページを飾ります!!

——自慢のデジタル写真を募集します

ホームページの各ページを飾るデジタル写真を、住民の皆さまから募集します。季節感あふれる風景や事物をとらえた写真をお持ちの方は事務局(伊深交流センター 0574-29-1395)までご連絡ください。

いずれも伊深地域内で撮影されたものに限りです。

使用するページ ■今週の一枚 ■伊深の四季

歴史的に貴重な資料で公開できるものも募集します。

「伊深の歴史」のページでは、後世に残すべき伊深の歴史を紹介します。ご自宅に残る資料(写真・書物など)で公開できるものがあれば、これも事務局へご連絡ください。



■各活動グループの動き

協議会内で個別テーマに取り組んでいる活動グループの最近の動きを紹介します。(代表者の敬称略)

野菜づくり体験グループ

代表：森 善一

- 野菜づくりを楽しみながら、田畑を荒らさないようにしたい。他地域の人たちに伊深へ来てもらって、野菜づくりに親んでもらい、伊深のことをよく知って欲しい。そんな願いから「野菜づくり体験」を始めて、4回目が終わろうとしています。
- 下本郷、連絡所の50m東の畑では、今は16家族の皆さんが、ナス、ピーマン、ゴーヤー、トウモロコシなどの夏野菜を収穫しています。

予告

9月からは、第5回目の「野菜づくり体験」を始める予定です。市の8月広報で、参加者を募集します。

若いご家族の参加が多いので、皆さんの野菜づくりのノウハウを教えてくださいと嬉しいです。

伊深の里の標柱づくりグループ

代表：福田美津枝

- 伊深には、名所旧跡や、歴史的価値のある場所が多くあります。
- そういところを、伊深を始め他地域の方々にも知ってもらおうと、右図のような標柱を立てることにしま

した。なお、材料として大洞の山で切捨てられたヒノキの間伐材を利用しています。

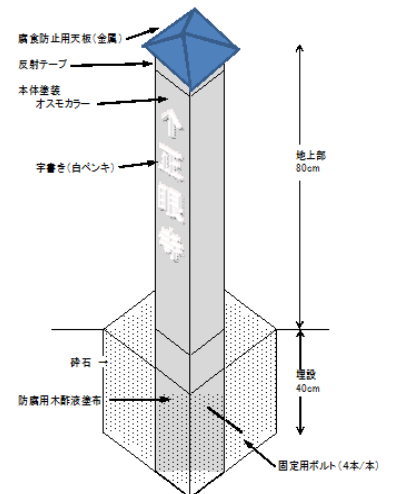
予告

8月26日(日) 8:30から、連絡所の敷地内で、標柱の塗装を予定しています。

誰でもできる簡単な作業です。協力してくださる方を募集します。

今後は、標柱への字書きもします。また、標柱を立てるにあたっては、自治会長さんや、設置場所の土地の方にもご理解と協力をお願いしたいので、よろしくお願ひします。

設置方法のイメージ



里山活動グループ

代表：大矢 伸司

- 「里山は伊深の宝物」の認識のもと、里山の今日的な価値を見直し活用する活動をすすめています。
- 引き続き、グループへの協力者を募集しています。

予告

今年度「山づくり塾」(仮称)を開催します！

- ・昨年度多数の参加者から好評だった「チェーンソー講習会」に引き続き、「人工林間伐の理論と実践編」を内容とする短期集中型の塾を計画しています。
- ・時期 2013年2月中の3日間。
- ・対象者 チェンソーが使える、間伐作業に関心のある方。
※計画内容が固まり次第、HPに掲示します。



▲昨年度の講習会のようす

伊深小 学校田支援グループ

代表：佐野 綾目

- 今年度から、伊深小学校5年生の学校田づくりを支援する活動を行います。
- 田植え、稲刈りの体験を通じて、子供たちに農業の大切さを知ってもらうとともに、田をつくれれば休耕田は活用できることを伝えていきます。
- 今後も、草刈り、収穫など人手を必要としますので応援していただける方を求めています。



▲初めての体験で最初はとまどっていた子供たちも、後半はピッチが上がってスイスイ。予定時間内に3枚の田が植まりました。

■地域のトピックス

地域内での最近のトピックスを紹介します

消防第6分団が操法県大会に市代表で出場

去る6月17日に開催された美濃加茂市の消防操法大会で、地元の第6分団が「小型ポンプ操法」「ポンプ車操法」「総合」の全部門で優勝という快挙を成し遂げ、8月5日に羽島市で行われる県大会(今年は「小型ポンプ操法」)に市の代表として出場することになりました。

これはそれぞれに仕事をもつ団員が朝、昼、晩と仕事の合間を縫って研鑽を積み重ねてきた成果が実ったもので、3年前の21年度に続く市大会優勝となりました。

県大会の出場順は全28チーム中のトップとなり、そのあとに続くチームの基準となる重要な役割を担うことになります。

がんばれ 第6分団!



「地籍調査事業」が伊深地区からスタート

美濃加茂市として初の「地籍調査事業」が今年度、伊深からスタートすることになり、対象区域の地権者・隣接地権者を対象とした地元説明会が7月20日、22日に開かれました。

「地籍調査事業」は市町村が事業主体となって行うもの

で、「一筆ごとの土地について、その所有者、地番及び地目の調査並びに境界及び地積に関する測量を行い、その結果を地図及び簿冊に作成すること」とされています。

この事業が伊深から始まることになったのは、平成22年度に伊深まちづくり協議会から市へ提出した要望事項の中に、「地籍調査の早期実施」が盛り込まれていたため、今後他の地域にも拡大され、最終的には市全域で実施されることになっています。

今回の調査区は牛牧の新谷（にたに）池の北に位置する「新谷」「薬師谷」の二つの小字の約160筆で、面積で約56haあり、伊深地域の山林の約10%にあたります。

説明会の出席者からは、「自分の山がどこにあるのかわからない」「境がわからない」「相続登記ができていない」などの質問が出され、市土木課の担当者からは、「登記資料や林班図などできるだけ資料を参考にしながら、最終的には現場で境界を確認していきたい」と回答がありました。

そして多くの参加者から「いろいろ課題もありそうやが、いいことなのでこの機会にはっきりしていかなきゃ」と前向きな発言が聞かれました。

事業は今年度：境界確定（杭打ち）、2年度：測量、3年度：公図作成、地権者への縦覧、登記の手順ですすめられ、今年度は11月以降、順次、境界確認が行われることになっています。

なお、この事業を円滑にすすめるため、森善一さん（上本郷）、渡辺道明さん（同）、大矢伸司さん（大洞）の3名が伊深地域の「地籍調査推進員」に選任され、今後、市と地元との調整役を務めていただくことになりました。



● 巻末雑感 ●

※住民の皆さまからの投稿を歓迎します。

地域活動を支えるもの

会長 大矢 伸司

昨年、今年とボランティア活動（＝地域活動）に参加する機会があり、感じたことがあります。

一つは、昨年、東北の災害ボランティア活動でのこと。

ある地区で最終日、半日ほどゴミ拾いをしたのですが、途中ですれ違った10人ほどの現地の大人たちから、「ごくろうさま」とも「お疲れさまです」ともたったの一言も声が聞かれなかったことに違和感を覚え、「今度来るなら別の場所やな」と思ったこと。

もう一つは、最近、河川敷で伐採された竹を片付ける作業を終わった反省会で、参加者から「これでは中途半端。キリのところまでやろう」との声が相次ぎ、結局、1回限りの予定が3回、手弁当で整備作業をやることになったこと。しかも、ほとんどが地区外の人達にもかわかわらず、地元からの参加が少ないことに何の不満も聞かれませんでした。

これらのことは、どこか共通点があるようで、でもそれがどこでつながっているのかわかりませんでした。ようやく気がつきました。

それは、「認め合うところ」とでもいうものでしょうか。

前の話は、片道14時間もかけて手弁当で参加しているボランティアの気持ちを「認められなかった」例。

後の話は、自分の価値観に照らして参加しているのであり、地元の参加がないことも「認めた」例、といえるかもしれません。

結局、地域活動を支える原動力は「自らの価値観に基づいて参加する意思」と「他人の事情を認める思いやり」ということになるような気がします。

言いかえれば、『私が必要と思えば参加するし、人の参加は強制しないよ』ということ。

そこには、義務として参加する『お役』とは全く違った力学が働いていると思います。

まちづくり活動も地域活動の一つであることを思うとき、これからの活動を支えるヒントがここにあるような気がしました。

伊深まちづくり協議会だより 第5号

2012. 8. 1発行

発行責任者 伊深まちづくり協議会 会長 大矢 伸司

事務局 美濃加茂市伊深町 909 伊深交流センター内

電話 0574-29-1395

※ ご意見・お問い合わせもこちらまで